

## ニュースリリース

### 赤外線データ協会(IrDA)と可視光通信コンソーシアム(VLCC)は、相互の技術開発 および研究を推進するため、共同開発協定に調印したことを発表

2008年9月3日、米国、カルフォルニア州- 赤外線データ協会(IrDA)と日本、東京都-可視光通信コンソーシアム(VLCC)は9月3日、東京において、共同開発協定を結び、光通信に関する技術の研究および開発を互いに促進していくことを発表しました。

IrDAは1993年に設立され、現在にいたる無線通信の標準化団体の老舗であり、赤外線を使用した無線通信の標準規格として、すでに30種類を超える通信規格を公開し、そのテクノロジーは、携帯電話はもとより、プリンター、テレビなどのさまざまな機器に搭載されており、「赤外線通信」、「IrSimple™」などの言葉として一般の人々に親しまれています。

VLCCは創立2003年以来、すでに企業数30社の参加する業界団体であり、照明や信号機など日常のさまざまな場所で見うけられる、可視光媒体の波動伝搬性を通信に利用することによる、高速、安全でユビキタスな可視光通信システムの推進と研究を行う業界団体です。

今回の共同開発協定の締結により、光学方式による無線通信を実現するという、同一技術を背景とする業界団体同士が、研究開発と技術について相互に提携することにより、技術開発面における相乗効果と、光学方式による通信手段のさらなる普及が期待されます。

今回の調印に関して、IrDAのエグゼティブ・ディレクターであるDaphne Terrell氏は、「オプトテクノロジーの分野の研究開発の最先端に位置する両業界団体が技術提携と情報交換をすることにより技術開発の加速化が進み、これまで以上の用途や、市場にオプトテクノロジーが広がるのが期待できるのは、とても喜ばしいことである。」とコメントしています。

さらにVLCCの会長である慶應義塾大学中川正雄教授は「広く使用されている携帯電話用IrDA技術と新しい可視光通信技術を結合することによって、非常にユーザフレンドリーな通信システムの規格が期待できる。」と述べ、今回の共同契約に対し期待を示しています。

IrDAは、来る10月22日に、東京都内の、京王プラザホテルにて技術発表会を開催し、3m以上の通信距離を可能にしたIrSimple方式による赤外線画像転送や、赤外線通信によるギガビット通信を可能にするGiga-IR方式などの展示とセミナーを予定しております。また、翌23日には、早稲田大学の理工学部キャンパスにて定時総会が開かれる予定であり、VLCCについても10月24日に東京都内の霞が関ビルにて総会が開催される予定となっております。

お問い合わせ先

IrDA:赤外線データ協会[www.irda.org](http://www.irda.org) 担当者:みどりミラー [Midori@irda.org](mailto:Midori@irda.org)

VLCC:可視光通信コンソーシアム[www.vlcc.net](http://www.vlcc.net) 担当者:松村友邦 [tom@gci.co.jp](mailto:tom@gci.co.jp)